

公開レッスン・公開講座

Liszt Festival 2011 in Omotesando
2011.10.22.sat.-10.28.fri Kawai Omotesando concert-salon [Pause]

10.24 mon 13:30-15:30

公開講座「リストの作品について」

2011年10月24日[月] 13:30-15:30 入場料 | 2000円

[講師] 野本由紀夫 (玉川大学教授)



野本由紀夫

Profile

東京藝術大学大学院を修了 (音楽学)。ドイツ学術交流会 (DAAD) 奨学金によりハンブルク大学 (博士課程) に留学。リスト国際会議への出席のほか、ヨーロッパ各地でリストの自筆譜研究に従事。指揮法を村方千之、佐藤功太郎他、管弦楽法を黛敏郎、音楽学を角倉一朗、W. デームリンク他各氏に師事。桐朋学園大学助教授を経て、玉川大学芸術学部教授。日本女子大学、埼玉大学、昭和音楽大学大学院、東京音楽大学他の各講師、NHK-FM 解説者、〈東京の夏〉音楽祭企画委員他を歴任。'08年より、NHK-BS テレビの「名曲探偵アマデウス」の監修者および解説者として出演中。'11年にはリストの専門家として「N響アワー」にもゲスト出演したほか、PTNA 8時間レクチャー「リスト徹底研究」の講師も務める。訳書・著書・共著に、『大作曲家リスト』、『ニューグローヴ世界大音楽事典』や『音楽中辞典』『ポケット音楽辞典』の「リスト」の項、『転換期の音楽：新世紀の音楽学フォーラム』の標題音楽論、『ベートーヴェン事典』『エミリー・ブロンテ論』『アン・ブロンテ論』『はじめてのオーケストラ・スコア』など。2台ピアノの指導者・編曲者としても知られ、「ノット・メソード」により門下生たちが国内・国際コンクールで優勝や入賞を果たしている。PTNA 正会員。「ヴォルフ歌曲全曲演奏会」最終回の成果に対し、演奏会実行委員として平成19年度文化庁芸術祭音楽部門の大賞を受賞。

10.25 tue & 26 wed 13:30-15:30

公開レッスン

2011年10月25日(火)10月26日(水) 13:30-15:30 入場料 | 2000円

[講師] 渡辺健二 (東京藝術大学理事・副学長)

[曲目] ピアノ・ソナタ ロ短調(10月25日)

メフィスト・ワルツ 第1番(10月26日)

愛の夢 第3番(10月26日)

[演奏者] 東京藝術大学音楽学部学生



渡辺健二

Profile

'54年生まれ。名古屋市立菊里高校音楽課程卒業後、東京藝術大学、同大学院修了。第43回日本音楽コンクール第1位。'78年〜'83年ハンガリー、リスト音楽院に留学。その間、ミュンヘン国際コンクール、第1回日本国際音楽コンクール、リスト・バルトーク国際コンクールに入賞。「僧衣を被ったメフィスト」といわれるリストの二面性のみならず、彼の奉仕精神に強い印象を受け、リスト作品の精神的理解を深め、その普及に努めることをライフワークとしている。現在、東京藝術大学教授として教鞭をとる傍ら、日本を代表するリストのスペシャリストとして、リサイタル、室内楽、オーケストラとの共演ほか、音楽雑誌への寄稿、講座、コンクール審査等を行っている。'05年より全音楽譜出版社より、野本由紀夫氏校訂・渡辺健二運指及び演奏解釈によるリストピアノ作品シリーズを刊行中である。'86年リスト記念メダル (ハンガリー政府)、『92年「空の日」芸術賞 (日本航空協会) 受賞。(財)カワイサウンド技術・音楽振興財団理事、日本ピアノ教育連盟評議員、全日本学生音楽コンクール審査員、国際リスト協会理事、リスト・バルトーク国際ピアノコンクール審査員 ('06年)。'05年12月より東京藝術大学理事・副学長。

10.28 fri 13:30-15:30

公開講座「リストと社会の関わりについて」

2011年10月28日[金] 13:30-15:30 入場料 | 2,000円

[講師] 西原 稔 (桐朋学園大学音楽学部長)



西原 稔

Profile

山形県生まれ。東京藝術大学大学院博士課程満期修了。現在、桐朋学園大学音楽学部教授、音楽学部学部長。18,19世紀を主対象に音楽社会史や音楽思想史を専攻。「音楽家の社会史」、「聖なるイメージの音楽」(以上、音楽之友社)、「ピアノの誕生」(講談社)、「楽聖ベートーヴェンの誕生」(平凡社)、「クラシック名曲を生んだ恋物語」(講談社)、「音楽史ほんとうの話」、「ブラームス」(音楽の友社)、「クラシックでわかる世界史」(アルテスパブリッシング)、「ピアノ大陸ヨーロッパ」(アルテスパブリッシング)などの著書のほかに、共著・共編で「ベートーヴェン事典」(東京書籍)、翻訳で「魔笛とウィーン」(平凡社)、監訳・共訳で「ルル」、「金色のソナタ」(以上、音楽の友社)「オペラ事典」、「ベートーヴェン事典」(以上、平凡社)などがある。

フランス・リストと19世紀社会 (概要)

1. 19世紀のサロン文化とリスト 19世紀はサロン文化の時代でした。パリだけでなく、ウィーンやベルリン、ペテルブルクなどのげました。リストを支えたのはこのサロンです。当時のサロン文化はどのようなものであったのでしょうか。またリストはサロン文化に対してどのように役割をになったのでしょうか。
2. リストの社会改革思想と音楽 リストは早くから社会の不平等に問題意識を抱きました。パリではサン・シモン派の集會に参加し、宗教による社会改革を唱えるラムネ神父に共鳴していました。こうした彼の思想は、音楽作品にも映しています。「旅人のアルバム」の第1曲「リヨン」はその一例です。
3. ヴァイマル宮廷楽長就任と新ドイツ派 リスト自身はコスモポリタンでしたが、かつてゲーテが宰相をつとめたヴァイマルの宮廷楽長に彼が就任したことは、新しい意味を持つにいたります。この町に、ゲーテ、ヘルダー、シラーらの記念祭と銅像が建立され、リストはそれぞれに作品を作曲しました。そのことによってヴァイマルはドイツの国家主義の象徴的な都市へと変質していきます。